

# 令和7年 第8回総務経済常任委員会会議録

令和7年8月21日 議員控室

## ○事 件

所管課報告事項

- (1) 令和7年7月30日に発表された大津波警報に対する総括について(危機対策課)
- (2) 鉛川レクリエーションセンター給湯ボイラー給水管の漏水状況及び損害賠償について(商工観光労政課)

協議事項

- (1) 要請のあった意見書の取り扱いについて

## ○出席委員（6名）

大久保 建 一 君	倉 地 清 子 君
関 口 正 博 君	三 澤 公 雄 君
宮 本 雅 晴 君	横 田 喜世志 君

## ○欠席委員（2名）

委員長 安 藤 辰 行 君	副委員長 牧 野 仁 君
---------------	--------------

## ○出席委員外議員（4名）

副議長 黒 島 竹 満 君	齊 藤 實 君
赤 井 睦 美 君	佐 藤 智 子 君

## ○出席説明員（5名）

危機対策課長 田 中 智 貴 君	防災係長 横 木 潤 也 君
総務課長 竹 内 友 身 君	商工観光労政課長 井 口 貴 光 君
商工観光労政課主査 渡 辺 直 樹 君	

## ○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君	事務局次長 藤 原 悟 史 君
議事係長 千 代 貴 大 君	

[開会 午前9時25分]

### ◎ 開会・委員長挨拶

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） おはようございます。時間は早いんですけども、第8回総務経済常任委員会を始めたいと思います。本日は、委員長、副委員長が欠席です。委員長挨拶については、割愛いたします。

それでは、早速所管の報告事項として、令和7年7月30日に発表された、大津波警報に対する総括について、危機対策課よりお願いいたします。

### ◎ 報告事項

#### 【危機対策課職員入室】

○危機対策課長（田中智貴君） おはようございます。それでは、危機対策課より令和7年7月30日に発表された、津波警報に対する総括についてというかたちですけども、現時点では経過報告というふうなかたちで報告させていただきますので、よろしくお願ひします。担当よりご報告させていただきます。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 係長。

○防災係長（横木潤也君） おはようございます。お手元に配布させていただいております資料に基づきまして、主要なところを抜粋の上説明させていただきます。

まず、1枚目をお目通しお願いいたします。

① 時系列とありますが、主要な事項を説明させていただきます。

7月30日9:40に北海道太平洋沿岸に津波警報が気象庁より発令されまして、同時刻にJアラートから津波警報の発動のうえ、避難を呼びかけております。防災無線からのサイレンやテレビ・ラジオ、スマートフォンのエリアメール等、津波警報発令にて町民からのそういったリアクションがございまして、役場へ電話問い合わせが危機対策課や総務課などで対応しております。

9:55に役場内で災害対策本部を設置いたしまして、初動体制構築及び今後の動きを確認しております。その後、避難所設置に向けまして各課職員が役場を出発し、10:49に北海道防災情報システムへの入力を完了しております。その間も、津波警報の発令からおおむね1時間から正午くらいまでにかけて、役場に地域住民の方々やマスコミなどから電話による問い合わせの電話が相次ぐという現状でした。

その間、備蓄品の飲料、災害時連携協定締結先や町内の商業施設等に飲料や食料品の提供を打診し、確保できたものから順次、各避難所へ配置しております。併せて、炊き出しも行うと同時に、地域の方々からおにぎりの提供等のお声がけもありましたので、避難者への提供に活用させていただいております。

こうした中、津波警報解除の見通しが立たない中でもありましたので、役場職員総動員での長期戦を視野に入れ、翌朝までの避難所運営体制を災害対策本部で定期的に確認しておりましたが、7月30日当日の20時45分に津波警報から津波注意報に切り替える旨、函館

地方気象台から事前に電話連絡がありましたので、避難指示解除に向けた動きと合わせて、対応しております。結果、20:51に避難所を解除し、おおむねの避難者は21時を境に帰宅されております。八雲小学校には、14名の旅行者などの方々も避難されておりましたので、翌朝までの避難所で対応しております。

7月31日につきましては、翌朝7時30分過ぎには八雲小学校を離れる避難者の方々がおりましたので、7時38分には八雲小学校の避難所を閉鎖しております。7月31日木曜日16時30分にも津波注意報は解除され、おおむねの一連の動きは完了してゐるかなというところでございます。

②道路状況・ライフラインについてですが、国道に係る通行規制につきまして、沿岸部を走行せざるを得ない国道5号線は八雲町内のほぼ全線で交通規制が行われている状況でございます。

同時間帯からも道道や高速道路も通行止めの対応となっております。津波警報発令中および第一波到達予想時間に職員を避難所開設に向かわせて良いかなど災害対策本部としても葛藤はございましたが、結果としては即時で避難所開設に向っております。

JRや停電、水道については記載のとおりでございます。避難状況につきまして、記載しているとおりではございますが、避難人数も避難所の建物内に来られた方、もしくは施設内の駐車場で車中避難されている方を把握していますが、その他、屋外の避難場所や高台に避難された方の詳細の人数を把握できませんでしたので、今後連絡手段や酷暑または厳冬の避難も課題のひとつとして、認識しております。

2枚目のカラー印刷の写真付きの資料となります。八雲小学校におきましては、不幸中の幸いと申していいのか言葉に悩むところではあるんですけども、夏休み中で児童の方々が授業をしていなかったということもありまして、なおかつ午前中の勤務中の時間帯でありましたので、八雲小学校ですとか山越小学校の教職員もいらっしゃったこともあり、避難者の受け入れなど初動対応していただいております。その間、役場職員が避難所の運営に配置しております。八雲小学校にも、教室のほうには空調設備があるということもございまして、教室のほうに避難をしていただく臨時的な対応をさせていただいております。

そのほか、八雲町内の商業施設ですとか、事業所、もしくは介護施設等の入居者様が八雲小学校のほうにも避難されており、町民センターやシルバープラザの様子も写真から一部伺えるかと思いますが、暑い時期だったこともあり、車内で避難する方々も多かったという認識です。

落部公園には自動車避難する方もあり、自動車避難のあり方や道路整備など検証作業を進めているところでございます。併せまして、シルバープラザも不安を感じた高齢者の方々が自主的に避難されておりまして、後に避難所として開設しております。町民センターは、金融機関ですとか、事業所の方々も非難されているというところでございます。

旧養護学校のほうは、消防本部代替拠点として活用し、人員車両を配置しております。八雲消防本部には通信指令が不在ということもありまして、熊石の消防署に119番通報をまわしているという対応をしております。

落部地区につきましては、落部公園や旭岡の高台等に自動車による避難が多く見受けられたという報告を伺っております。落部公園にも自動車避難する方も多くありましたので、今後の自動車避難のあり方等、検証作業を進めるところでございます。

今回の7月30日の津波警報の発令がありました実証等を踏まえまして、今後も地域の避難経路を定める意見交換の場を持ちつつ、併せて訓練もしくは計画などを通じて、より実効性のある避難計画も勘案してまいります。

以上、雑ばくで恐れ入りますが、危機対策課からの経過報告としての説明を終わります。よろしくお願いたします。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 説明が終わりましたけれども、質疑ございませんか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） まず質問は、14名の旅行者がいたということでしたけれども、この方って全員日本人でしたか。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 防災係長。

○防災係長（横木潤也君） 全員ではなかったかなと思います。事業所の名前は伏せますが、自動車整備工場の外国人労働者の方が5名いらっしゃったというのがございます。その他、JRが停まってしまいまして、八雲町から身動きできないというご家族が旅行者として、八雲小学校にいらっしゃいました。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） なんかいろいろ今回の災害の避難のことにに関して、いっぱい聞きたいこともあるし、問題点も課題もあったと思うので、今細かいことしか聞けませんけれども、外国人の対応とかもきっとあるだろうなあっていうのも今回経験しただろうし、今回妊婦やペットの避難者がいたということでしたけれども、福祉の件はどうしたのかなっていうことも気になってたんですけど、その辺はどうでしたか。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 防災係長。

○防災係長（横木潤也君） まず外国人の方は、外国人向けの情報発信ですとか、避難所運営のあり方っていうのを今回見直すきっかけになるかなと考えております。いかんせん、漁師の皆さんにいるインドネシアですとか、そういった各国の方々向けにどこまで対応するのがいいかというのもありますし、防災に限らず、防犯ですとかそういった目線でも外国人にアプローチさせていただければなと思っております。

また、ペットっていうのも実際役場の方にも問い合わせがありました。こういった時に避難所連れてっていいですか、ということで町民各位から問い合わせがありましたけれども、ゲージに入れた上で避難所のほうにお願いいたしますということで対応しておりますが、いかんせん当然不特定多数の方が避難者を避難所に集まりますので、そういったところが配慮も必要であろうというところで、避難所のレイアウトですとかを今後職員ですとか、地域住民の方々浸透させていただければならないと思っております。

また、妊婦の方、要介護配慮が必要な方々というのも、今回課題が露呈しているかなと思います。避難できないんですけれども、どうしたらいいだろうかということも、東町の方から私も電話で対応しておりますし、そういった中で、今回津波は最大3mという想定でしたので、東町ですとか富士見町のいわゆる国道5号線のバイパスまでは、浸水しないんじゃないかという想定ではございましたが、そういった中で極力垂直避難ですとか、もしくはご近所での移動ですとかを踏まえて避難してほしいというところでございます。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 他に質問ございませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 落部地域には私町内会長等もやってるものですから、独居老人だとか声をかけて、その他町内外の方々にも声をかけて。そしたら、落部っていう地域はわりかし、皆さんで声かけあって避難されているという状況がよくわかったんだけど。

落部支所のほうに人員を運んだりしたんですが、僕も災害の点については詳しく調べたこともなかったもんだから、落部支所には一切備蓄品ってないんですよ。それで、夕方何時頃かな。2時とか3時とか結構遅い時間になって、役場の総務課の方々が運んでいただいていたんですよ。

当然、今回はああいう状況だったんでそういうことが可能だったかと思うんだけど、当然役場職員だって、本当にそういう事態になった時にはそういう対応ができるはずもない部分もあるでしょうし、地域の備蓄のあり方っていうのは最低限のものでいいんだろうけれども、やはり考えていただきたいな。今回は断水も何もなく終わったんでね、良かったんだけど、その辺というのは、八雲地域以外の地域会館に対しての備蓄のあり方っていうのはちょっと検討していただきたいなというふうに思うんですけど、どうでしょうか。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 防災係長。

○防災係長（横木潤也君） 関口委員がおっしゃるとおりですね、私たちも今回そちらのあたりも検証を進めております。落部支所の方には飲料水ですとか、食料品の備蓄というのも数限りない状況でございましたので、発電機等は置いてはあるんですが、今回のような避難者が結構な数いる時には対応できなかったのかなというところで、夕刻以降に炊き出しのものですとか、各町内商業施設から確保できた食料品を総務課ですとかから配膳していただいているという状況でございます。

分散備蓄のあり方ですとかも、今後検証を進めておるところでございますので、落部支所ですとか熊石の支所ですとか、もしくは地域会館という避難の拠点となる場所に、備蓄のあり方というのも今後検証を進めさせていただければと思いますので、議員さんの意見交換も踏まえて、今後進めていただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 他に質問ございませんか。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 横田委員。

○委員（横田喜世志君） 避難状況でいろいろな地域やら罵倒を書かれているんですけど、なんだろう。避難所っていう意識っていうかな。避難所でないところへ避難する人たちっていうことに対して、今後どのような形を作ろうとしているのか伺いたいと思います。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 防災係長。

○防災係長（横木潤也君） おそらく指定避難場所ではない高台のことをおっしゃっていただいていのかと思います。今回の資料でありますとおおり、春日スキー場ですとか大新スポーツ公園というのは津波から逃げる指定避難場所ではないのかなというところではあるんですけども、こういった場所も指定避難場所ということで目安であります、そういうところも避難していただくのは、避難者の各自の判断になるのかなというところではございますが、今後こういった避難場所の指定のあり方というのを進めていきたいなと思っております。

各自避難者各位がスキー場まで逃げたということも、私たちが実際に目にしたところではないんですが、こういった職員ですとか住民の方々からの意見を踏まえてこういう形となつてございますので、よろしくお願ひいたします。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 横田委員。

○委員（横田喜世志君） そういうふうに住民の個々の考え方によって避難場所っていういろいろ出ちゃうとか、なっちゃってる現状っていうものをある程度是正しながら、その場所に避難して、水なりなんなり食料も含め、ここの中にも書いてあるけど、2枚目のところにおむつの要望があつたりだとか、そういうものの配給っていうか提供しなければならなくなるわけですよ。

そっち側のそういう災害備蓄品をいかに必要とする人に届けるかということも並行してやっていかないと、避難場所に対してのその後のケアができるかどうかにかかってくるし、現実聞いた話だと八雲小が避難場所になっている東町の人が上八雲まで行ってるというのも聞いているので、上八雲は避難場所じゃないよねって言ったけど、本人たちは心配でより高いところへっていう感覚で避難しているんですよ。

でも、ここには書かれているなどで済まされているのかもしれないけど、そういう場所に対しても、要は災害備蓄品というものの提供が必要だと思うんですよ。今回、何事もなかったって言ったらおかしいけれども、それに対して教訓として、次のことに活かしてほしいなという気持ちです。

それと、119番通報会社が熊石にしたっていうのが2枚目に書いてあるんですけど、以前伺った中では、西消防署、役場のすぐ近所にある確か西消防署という名前だったと思うんですけど、そこが拠点であるから、当時消防署の新庁舎を建てたときに西消防署がなくなる予定だったのを残したと。

要は、消防署が浸水地域になっているので、西消防署をそういう時に活用すると言って残したという記憶があるんですけど、今回このように熊石になってしまうっていうのは、西消防署の現状はそういう対応になってないんですか。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 防災係長。

○防災係長（横木潤也君） 西分団所のことかなと思うんですけども、おそらくこちらは、消防団の待機施設になっているのかなと思います。おそらく私も消防本部の人間ではないので、詳しくは分かり兼ねるところもあるんですけど、通信指令が八雲町消防本部、いわゆる給食センターとローソンの間に不在にするという対応をとっているそうですので、この間の 119 番通報を八雲町消防本部で受けれないということで、熊石消防署の通信指令施設を使っているということを伺っております。以上でございます。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 他に質問ございませんか。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） これ見れば、やっぱり改めて八雲町は愚かなことをしたんだなってすげえ思いますね。消防本部を浸水区域に作っちゃうと、こういうことになっちゃうんだって言う。改めてこういう事例を見るとびっくりしちゃうっていうかさ。

○委員（三澤公雄君） 消防本部は仕方ねえって。だって、津波を受けるっていう文化がない時代に建て替えだったんだから、悪いけど。擁護するわけじゃないけど、あの後だもん、奥尻の地震がさ。ねえ。

○委員（大久保健一君） まあいいや、それは感想だけども。ちょっと資料について質問です。③の東野ふれあいプラザは最大 13 人確保で、これって何の数字ですか。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 防災係長。

○防災係長（横木潤也君） 最大 13 人の避難者がいらっしやっただって言う、おそらく午前中で記録しているものかなと思います。13 時 45 分時点では 0 人という。

○委員（大久保健一君） 来たけど。

○防災係長（横木潤也君） はい。

○委員（大久保健一君） その時点では 0 だったと。

○防災係長（横木潤也君） もう総務の段階では、減らされてたっていう可能性はあるなど。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） 今回八雲地区でいけば、確か内浦と富士見町、東町、豊河町だったっけ。それで、その地区に人口が何人いるのかわからないですけども、把握しているかどうかかわからないですけど、この避難所以外も含め、どれぐらいのパーセンテージで避難の実際指示を聞いて避難したものなんだろうかなあってすごい思ってたんですけど。どう、把握はできないんですけど、ざっくりどうなんですか。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 防災係長。

○防災係長（横木潤也君） 正直申しますと、私たちもそういった数字というか、パーセンテージ欲しいなと思っているところではございます。ただ、私たちも人から伝え聞いたものですとか、実際に避難所にお越しいただいた避難所の方しかカウントできていないというところもございます。

なおかつ、国道5号線の通過交通ということの方々も高台に逃げているということもございまして、純粋な八雲町民に限らず、札幌～函館間を利用されているの方々も高台に避難しているということも踏まえると、一体何人の方が避難されていたのかなというところも実際把握できてなくて心苦しいところはあるんですけども、もしそういったなんか、例えば、他のソリューションを使って、そういった数字を把握できるのであれば、今後検討させていただきたいと思っております。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） それと、避難所に来た人たちの中で、どれくらいの割合で車で移動してきた人たちがいるんだろうかなと思います。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 防災係長。

○防災係長（横木潤也君） 申し訳ございません。そちらの方も、何人の方が569人のうちの車何台でお越しいただいたですとか、何台の方々がそういったパーセンテージっていうのをちょっと持ち合わせないというところが申し訳ございませんというところがございます。

ただ、おそらく私も過去30年、南西沖地震ぐらいまでさかのぼって、津波警報発令という事象を調べてみましたが、今回八雲町の太平洋沿岸で出たのが今回初めてだったのかなと思います。

町民の方々もかなりびっくりされたのかなというところで、日常の足である自動車で避難された方が多かったのではないかなという、私担当個人の感覚ではございますが、そのような印象をもっております。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） 今後の話なんですけど、危機対策課でいけば、こういう避難指示っていう最上級の警戒だよ。これでいくと、どれくらいの人たちっていうかな。何%の人たちに実際指示を聞いてほしいっていう目標数値みたいなものって作るの。今後だよ。

○委員（三澤公雄君） 全員でねえのか。

○委員（大久保健一君） 全員。

○委員（三澤公雄君） だって、指示だから聞いてもらわなきゃ困るでしょ。目標としては全員が聞いて、そして判断してもらうっていうのは、相当人数が避難してくれないとね。指示はそのために出してると思うからさ。

○委員（大久保健一君） まあ、課長の話も聞こうよ。

○委員（三澤公雄君） ディスカッション。

○危機対策課長（田中智貴君） 委員長、危機対策課長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 課長。

○危機対策課長（田中智貴君） 実際のところ、うちの方としては何%という数値目標とかっていうふうなことで、具体的に把握しうる数値を算出できないのかなと思います。

実際のところ、私たちの方ではできることとすれば、いかに情報伝達手段を増やして、その対象者が避難されるっていう部分で、逃げていただくという情報を取りやすくするっていうふうな試みをし続けることしか、まずうちの方ではできないのかな、というふうな感じで考えております。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） この時、私も町内会長なんで、お年寄りと話したりする。年とればとるほど、もう私の人生これでいいやっていう人もいたんで。避難しない、避難したくないっていう人も中にはいるんだよ。

だから、それを考えたら、要支援とかさ、地域に共助って言って、それがさ、避難が遅れる原因にもなりかねないと思うからさ。普段からのコミュニケーションとかしてないと、誰が逃げる気になってんのかとか、逃げる気ねえやつ誰かとかってある程度話して。だからって置いとくわけにはいかねえけどさ、だけど実際にたからさ、そういうのだ。どう思ってます。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 防災係長。

○防災係長（横木潤也君） 大久保委員おっしゃるとおりですね、実は私の東町の町内会にも同じような方はいらっしゃいます。津波が来たら、もう、ねっていう。いらっしゃる。それは余談としまして、基本的には津波でんでんこという東北の伝承があるような形で、まず各自の判断で逃げてほしいというところがございます。

その上で、地域社会、町内会ですとか、ご近所の方々がこういった方がいらっしゃるよですとか、こういった意思もあるよっていうことを把握していただくのも1つの方法かなとは思っております。

そういった中で助けに行ったがために、消防団の方が亡くなってしまったですとか、ご近所の方が亡くなってしまったっていうのを東日本大震災の事例でもありますので、そういったところの一応線引きっていうのは難しいのかもしれませんが、こういったところも議員の皆様と議論させていただきながら、避難のあり方というのも今後進めさせていただければと考えているところがございます。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 他に質問ございませんか。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） ここまでのやり取りを聞いてて、特に後半の大久保さんの指摘。指定場所を指示したのに、何人その指示に従ったんだろうかという、とても大事なデータだと思うので、やっぱり職員動員聞き取りしてでもそれは集めなきゃいけないと思うし、課長、ちょっと知恵を使えばね、この総務常任委員のメンバーでも聞き取り協力してくれ、なんていったら、秋に選挙を控えてる議員なんてもう堂々とあんな個別訪問で、議員活動にアピールできるチャンスなんだから、そういったまあ、ちょっと冗談だけでも。

これは、とっても大事なデータになる。今回、幸いにもこの程度で終わったことだから。だから、余計検証してこんな結果だったんですよ。避難場所じゃないところにもこんなに逃

げたけど、本当にその人たちに避難物資を運ばなきゃいけないのか。逆に、避難物資が届かない場所だけでも選んでそこに避難した。ほとぼりが冷めたら、避難場所に自ら行くように促すだとか、そういった検証したバックデータをもとに町民に還元してね。

次はじゃあこういうふうには避難したほうがいいんだねとか、もう一度防災マップを確認しようよだとか、そういった動機付けにできるような活動に活かしていく必要があると思うんだよね。

俺すげえのんきで、30日ね。小牧市民交流で活性化センター。川に一番近いところでハンドメイドのお母さんたちと小牧の子どもたちとチーズ作りやってるわけだよ。

○委員（大久保建一君） そうだ。

○委員（三澤公雄君） ガンガン鳴ったよ。スマホとか、ね。だけどさ、教育委員会の職員が何にも。彼らはスケジュール通りにやるのが大事だと思ったから、彼らは彼でいろいろ考えてたんだと思うんだよ。

2班に分かれてさ、上八雲チームと川に近いチーム。川に近いチームが終わったら、安全なところから子供たち下りてくるんだから。それで二交代で午前中にそういう行事やったもんさ。一切避難の情報がね、波が来たって言えば、それから逃げれば間に合うっていう距離感もあったから職員を責めるわけじゃないんだけど、そののんきな環境にいたからね。午後から俺はシルバーでまた別なチーズ作りだったんだけど、職員がお昼前だったけど、もう米研いでるんですよ。だけどのんきだから、なに一もちでもつくのかーいなんて大バカなこと言っちゃって。

だから、これに書いてあるスケジュール、炊き出しの準備が2時からとかさ。夕食の検討が4時からって書いてるけど、その前に栄養管理士もいたから、先に動いている職員もいたってことはつかんでいるのかなと思ったりもしたんで。

だから、繰り返すけど、幸いこの程度で終わったんだから、いろんな検証を総動員してやって、データをとったものを町民にフィードバックして、至らなかったことをちゃんと至らなかった人々には、分かるようにしなきゃいけないなっていうことがあります。

それをお願いしたいのと、もう一点。これは、うちの家族なんだけど、のんきな僕が悪いんだけど、昼帰ったら親父たちは車でより高台の上八雲地区まで行ってました。立岩は立岩会館が避難場所なんだけど、あそこは低いからっつって、もう立岩の人間は当てにもしないで上に行っちゃったんだ。

そしてね、避難のやり方に則ってるらしいんだけど、ブレーカーを落として行ったのさ。これって火事の心配したら正しいなと思うんだけど、場合によっては食料の確保とかを考えたときに、時間たったら冷凍庫パンなるわけでしょう、あの真夏の時期にね。季節考えた時に本当にそれがいいのかってことも、ちょっと検討材料でないかなと思うんだよね。のんきな俺は、なんでブレーカーが落ちてるんだろうなんて思って。いろんな漏電の調べなんかもしたけどさ。避難した人間は、これがルールだっつってやってんだよね。

だから、そういう意味でのいわゆる検証っていうのも範囲は狭めなくて、いろいろ今までの決まってきたこともいいんだろうかということも、時間かかるかもしれないけど、やる必要があると思うんだよね。この程度で終わったから余計そう思います。よろしくお願いします。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 係長。

○防災係長（横木潤也君） 三澤議員おっしゃるとおりですね。まず、口述していただいている、ブレーカーを落としたという件は、おそらく大きな揺れがあった際の通電火災を防ぐための方法かなと思っております。

大きな地震、震度5強ですとか、震度7があったときに建物が倒壊しまして、電線におそらく損傷があって、その中で例えば建物内の電気・電線の本線に通電した場合、ブレーカーを落としてないと電気が通った時に通電火災が起きてしまうと、そういった事象が阪神淡路大震災とかであったので、そういったところでブレーカーを落とすという避難者の心構えになっているのかなと思います。

○委員（三澤公雄君） じゃあ、今回は必要なかったってこと。

○防災係長（横木潤也君） 今回は大きな揺れがなく、且つ津波警報という、かなり特異な事象だったのかなと推察いたします。ただ、それが間違いではなかったっていうことでは考えてはいるんですけども、ただ、冷蔵庫の食べ物が損傷してしまうっていうのも考えると何が悪いのか悪いのか悩ましいところかなと思います。

前段で、三澤委員おっしゃっていただいた、至らなかつた点ということで、高台に逃げていただいた方々が次どのようなアクションをすればいいか、行動すればいいか、どこの避難所に向かえばいいか、というのも今回課題の一つかなと考えております。

津波警報を実際に解除されているのが8時45分でございますので、その間ずっと屋外の高台にいればいいのか、というところもございまして、そういった方々への連絡手段ですとか、そういったことも今後の検証の一つかなと思いますので、よろしく願いいたします。

○危機対策課長（田中智貴君） 委員長、危機対策課長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 課長。

○危機対策課長（田中智貴君） すみません。補足事項なんですけども、今回改めて思ったのは、普通の大雨が一般災害と異なりまして、この地震・津波といったような急な災害対応については、やはり違うんだというふうなことを改めて実感しました。

まず、警報が発生して役場にまず電話が殺到した。これはいわゆるコールセンターシンドロームという事象で、要は一般町民がどこに逃げたらいいのか、店閉めて逃げた方がいいのか。どうしたらいいのかといった、役場に判断を仰ぐような問い合わせが大量に来たんですね。そういった部分で、そこは自分の身は自分で守るというふうな視点で、明らかに防災無線が鳴ってアラームが鳴っている中、わざわざ役場に電話する間もなく、すぐさま高台に逃げるといったふうな部分で、そういったところから町民の意識を変えていかなければいけないのかなと。私たちの危機対策課だけではなく、総務課、戸籍窓口といったところで、電話対応をしていただいたというふうな事象もございまして。

併せて、私たち役場職員の数は限られております。それに対して、避難民は相当数今回いました。そうした中で、避難所開設というふうなかたちで対応しましたが、行政でも対応できる限界っていうのはあります。実際のところ合わせて、職員の安全確保というふうな部分もあります。

そうした中で対応できる部分もあれば、町民の皆様に対応していただかなければいけない部分もあると思います。そういった控除の限界っていうふうな部分を真摯に、私たちは事

実として町民の方々に訴えていかなければいけないのかなというふうな部分も改めて痛感したというふうなことが今回の教訓となっております。

併せて、避難行動に関するアンケートにつきましては、今、北海道防災士会の道南ブロックの方で、東南の住民の皆様方に当日の避難行動をどう行いましたかっていう検証のアンケートを行っております。

そうした中で、地域に八雲町限定というふうな形では名前を抽出できないんですが、一定程度の住民の避難行動のあり方は、わかるのかなというふうな部分もあるので、協力して工夫して情報収集合わせて現在職員向けアンケートも行っております。その辺をまとめた中で、振り返りながら検証していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） 実際に今の役場に指示を仰ぐ。これ、結構本当あると思うんで、自分の行動を普段からそういう風に決めてないっていうことがあるので、それに関連して、防災無線のあり方、（聞き取り不能）音声流して、多分電話が殺到してきたんだと思うんだけど。音声で説明するのも必要かもしれないけど、例えば非常に危険を知らせるならこの音でとか、回数だとか、もうそういう単純化で決めちゃって、しゃべるっていうのをやめないかい。聞き取れなかったっちゃうだけで不安だから電話するわけでしょ。そういうことの職員対応も大変だと思うし、そういったことも含めて、今回の検証として住民にここまでは手が届きませんと手が回りません。

なので、改めて皆さんで自分で守るために勉強してくださいっていうようなまとめ方をするっていう。遠隔地避難も自分の判断だと思うけども、じゃあその判断した後、どういうことにするかっていうのは、マニュアルに戻ってもらうだとか、今回のことを検証した上で、フィードバックするということをやっていくと説得力があると思うんで、頑張ってください。

○防災係長（横木潤也君） 委員長、防災係長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 係長。

○防災係長（横木潤也君） 三澤議員おっしゃっていただいたように、音のミスによる防災無線での発令ですとかも●●かなとは思いますが。そういったのを音声に頼らないものですか、緊急性の高いサイレンですとかそういったものも一つのあり方かなと思いますので、今回の検証も含めて、いろいろな視点で検証を進めさせていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○委員（関口正博君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 関口委員。

○委員（関口正博君） ごめんね、長くなってしまったけど。

ただいろいろ総括出たと思いますけど、落部地域に限って先ほども申し上げたんだけど、わりかし皆さんしっかりと逃げていただいた。これは、これまでの役場の取り組みであるとか、危機対策課が出てきてからのこの啓蒙活動とか、いろいろなものが多少なりともやっぱり結んでるんだろうなっていうのは、実感させていただきましたよ。

さっき、地域会館の備蓄のことも申し上げたけど、これも啓蒙活動を突き詰めていけば、個人がちゃんと自分たちの命をしっかりと守るということに立てば、ちゃんと自分たちで何日か分の食料を用意して逃げるだとかということにつながっていくと思うんだよね。

だから、日々のそういう活動ってこれからも地道に続けていく。もちろん役場にできることって限られるから、やっぱり個人個人に頼らなきゃならないというところを大前提に自分は立つべきだと思いますし、そういう意味で活動していただきたいのと、八雲と地域の差って何かなと思って、やっぱり地域コミュニティなんですよ、町内会。落部なんかはやっぱり小さい町だから、地域コミュニティっていうのはまだまだ八雲町に比べると機能する部分ってやっぱりあるんだよね。

だけど、八雲地域は人数が多いから、地域コミュニティの町内会っていうのかな、そういう活動の差っていうのは、人数大小にかかわらずやっぱりあるのかなっていうところも、ちょっと問題として出てくるんだろうなって気はするんですよ。

最終的に役場がどうこうするんじゃなくて、個人が個人の命を守ることによる前提に立ったときには、この地域コミュニティのあり方っていうのは、改めて検証する必要があるのかなっていうのが、今のやり取りを聞いててすごく思ったことです。

ただ、落部に関して言えば、ものすごく防災意識っていうものがどんどん高くなってるんだなというのはすごく感じさせていただきましたので、これは続けていっていただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 時間も時間で、一応10時までということで、危機対策課から言われてたんですけれども、今日危機対策課が研修会合が入っているもんですから、この時間で締めたなと思いますけれども、よろしいでしょうか。

○危機対策課長（田中智貴君） 13時半から設立総会がありまして、14時から議長講演になります。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 以上をもちまして、危機対策課から大津波警報に関する総括を以上で終わります。

#### 【危機対策課職員退室】

#### 【商工観光労政課職員入室】

○委員（大久保健一君） 熊石ならもっと逃げたべな。

○委員（関口正博君） 落部でもかなり逃げたよ。男たちはさ、漁師はみんな船出して行くから、女の人そういう意識って高いと思う。

○委員（横田喜世志君） こっちの東町の件はさ、いいんだ一っていう人はさ、自分の足がない。それで、他人に迷惑かけたくないっていう。

○委員（大久保健一君） 総合病院に逃げたやついないんだべか。

○委員（横田喜世志君） うちの母親もそうなんだけど、その日が予約日さ。それで行ったんだって、5階に。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） よろしいですか。

事件の②、鉛川レクリエーションセンター給湯ボイラー給水管の漏水状況および損害賠償について、商工労政観光課よろしく申し上げます。

○商工観光労政課長（井口貴光君） 委員長、商工観光労政課長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 課長。

○商工観光労政課長（井口貴光君） おはようございます。鉛川レクリエーションセンター給湯ボイラー給水管の漏水状況および損害賠償にかかる報告について、急遽お時間をいただきましてありがとうございます。

本件については、7月10日に開催の総務経済常任委員会において、漏水の発生状況とそれに対する対応についてご報告を申し上げ、ご理解をいただいているところであります。

前回の報告以降の漏水監視状況と今後の対応について、ご報告させていただきたいと考えておりますが、前回の報告と内容が重複している部分があることから、資料の説明は簡潔にさせていただきますので、ご了承お願いいたします。

それでは資料1をご覧ください。1の漏水の状況であります。6月17日に女子更衣室床下にて、3箇所の漏水発生と記載しておりますけれども、3箇所の漏水発見の誤りでありますので、訂正をよろしくお願い致します。

この漏水については、翌日に応急処置を完了しましたが、6月25日にまた新たな場所で漏水が発生したということでございます。

給水管の老朽化が激しい状況にあることから、応急処置を繰り返すという状況にございましたが、最終的には7月15日に漏水箇所の応急処置を終了している状況にございます。この間、5箇所から漏水が発生したものであります。

次に、2の損害賠償額の算定方法と、3の漏水発生月の推定については、前のご報告を申し上げますので、説明は割愛させていただきます。2ページをご覧ください。

(2)の灯油消費量の比較についてですが、前のご報告では灯油消費量から判断し、漏水の影響は、令和7年3月から6月までであると推定したところでありますが、7月以降における漏水の有無と灯油消費量を確認したところ、本日現在で老衰はしていないことを確認しているところであります。

3ページをご覧ください。(4)の損害賠償額についてですが、7月の応急処置完了以降、新たな漏水が発生していないことから損害賠償額の増額はなく、前のご報告申し上げました額と同額の44万5,621円でございます。

最後に、(5)の損害賠償額の確定および予算補正であります。①は前のご報告申し上げている内容でありますので、②をご覧ください。本日の委員会報告として、漏水監視を行ってきた結果、新たな漏水は発生しておらず、灯油消費量の増加が認められないことから、損害賠償額の確定については総務経済常任委員会、本日の委員会へ報告後に専決処分を行い、第3回定例会において予算補正を行うこととし、事務処理を進めてまいります。

以上報告といたしますので、よろしく願いをいたします。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 質問ございませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 関口委員。

○委員（関口正博君） ごめんなさい。僕この報告があった時の委員会、ちょっと欠席したもんだから、前回の総務委員会で改めて質問させていただいた次第で、今回の報告ありがとうございます。

それで、確認だけさせてください。今回漏水した箇所っていうのは、このたび今季行われる改修工事の際に、すべて配管が取り替えられる予定だった部分の破損漏水っていうことでよろしいですか。

○商工観光労政課長（井口貴光君） 委員長、商工観光労政課長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 課長。

○商工観光労政課長（井口貴光君） 関口議員おっしゃるとおり、今回の修繕に係るまさしくその場所ということでご理解をしていただきたい。男女の床下の給水管ということですので、今回は女子でしたけれども、10月に修繕をする予定の箇所ということでございます。

○委員（関口正博君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 関口委員。

○委員（関口正博君） そしたら、さらにこの秋には今年度内を使って、これらの今漏水箇所を緊急で直したところを含めて、全て新規の配管になるということでもよろしいんですね。

○商工観光労政課長（井口貴光君） 委員長、商工観光労政課長。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 課長。

○商工観光労政課長（井口貴光君） 常任委員会にもご報告を申し上げている、17カ所で建築にかかる部分、あるいは設備にかかる部分ということで、令和6年度は休業を要しない修繕2カ所で、令和7年度は残っている15カ所ということで、配管に関しては全面それを修繕、取り替える状況になっています。

○委員（関口正博君） はい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 分かりました。それはあくまでも予定されてたもので、それがその前に破損してしまって、緊急修繕したっていうことの賠償ということですね。

ごめんなさい、僕ちょっと勘違いしてたもんだから、過去のいろいろな議事録を調べてみたところ、別な何も問題がないなということは、僕なりに納得してますので了解しました。ありがとうございます。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 他に質問ございませんか。

（「なし」という声あり）

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） ないようですので、この件については終わります。ありがとうございます。

#### 【商工観光労政課職員退室】

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） （2）報告事項についての協議。引き続き、協議事項で要請のあった意見書の取り扱いについて、よろしくお願ひいたします。

○議会事務局次長（藤原悟史君） それではすみません。協議事項1番、要請のあった意見書の取り扱いについてということで、意見書の案については別紙資料のとおりですが、国土強靱化に資する道路整備等に関する意見書ということで、例年要請のある意見書であります。この件について、議員から発委として提出するものとして、取り進めてよろしいかご協議いただきたいと思います。

○委員（三澤公雄君） ちょっといい。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） 例年の文章通りなのかもしれないけど、上から5行目のミッシングリンクって、これトンデモ本によく出てくる言葉だけども。高規格道路におけるミッシングリンクってなんだ。なんかよくUFOだとか、謎のなんとかとかっていう時に出てくるような言葉だと思うんだけど。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 事務局のほうからすみません。

文面の解釈ということであろうかと思うんですけども、高規格道路は要は、普通の一般道路と高規格道路が入り混じって、なんていうのかな。全道をネットワーク化されていない状態を示したいのかなって理解してたんですよ。

○委員（三澤公雄君） あ、まだ高規格道路が肯定されてるけど、できてない。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） ぶつ切り状態で一般道に降りてみたり、要は、函館新道みたいなことが高規格道路と理解してたんですけども。

○委員（三澤公雄君） 混ざる。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 混ざっている状態。全てはネットワークされてなくて、高規格道路だけで全道を渡っていけるような状態じゃないことを示したいのかな、というふうに理解しておりました。

○委員（大久保建一君） ミッシングリンクとは、途切れた繋がり。

○委員（三澤公雄君） んー、なるほど。はい、わかりました。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） どうですか。取り扱ってよろしいでしょうか。

○委員（三澤公雄君） いや、取り扱うべきだと思います。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） そうしましたら、取り扱うようにお願いします。

そうしましたら、協議事項については終わります。その他ありますか。

（「なし」という声あり）

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 次長。

○議会事務局次長（藤原悟史君） 次回の総務経済常任委員会なんですが、9月の11日を予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 議会中だべ。

○議会事務局次長（藤原悟史君） 9月4日ですね。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 4日。

○議会事務局長（野口義人君） 定例会が9月4日から開会して、その定例会中に総務経済常任委員会の報告書を上程しなければいけないという流れがあるので、今報告書のたたき

台を今、正副委員長と事務局と詰めておりますので、そのたたき台を一度9月4日の定例会が終わった後に見ていただいて、最終日に出すという流れになりますので、ご協力お願いしたいと思います。

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） 皆さん、よろしいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○委員（年長委員）（宮本雅晴君） そうしましたら、第8回総務経済常任委員会を終了いたします。

○委員（大久保健一君） 今後というか俺知識として聞いておきたいんだけど、委員長・副委員長が欠席した場合、宮本さんが議事進行したのはなんで。

○議会事務局長（野口義人君） 年長者で。

○委員（大久保健一君） 年長者、そうなんだ。

[閉会 午前 10時22分]